

良質な『桃生ブランド』の砕石を 安全・安心な暮らしのために



砕砂を作り出す『ミルブレイカーII 1680型ボールミル』

事業 概要

平成30年度
補正

都市型建築物向け高強度・高耐久コンクリート用 砕砂原料生産技術革新事業

都市型建築物を高強度・高耐久化するために、コンクリートに配合する砕砂原料の安定供給を目指す。
そのために必要な製造ラインを導入して、納品先が要求する粒度基準および生産能力を確立。
JIS認証を取得し、品質の高さも証明した。

二億年前の地層から 良質な砕砂に生まれ変わる

宮城県北部から岩手県にかけて伸びる北上山系の地質は、中生代三畳紀の硬質な砂岩と粘板岩の互層で安定した岩盤が特徴である。桃生石産の採取場はその宮城県側に位置している。

「県内の同業他社の岩石と比べても品質のいい石が採れると自負している。『桃生ブランド』の石を硬質砂岩と呼んでおり、端的に言えば強度がよく出てコンクリートに最適な石です。」と土井康博代表取締役は胸を張る。

当社は、コンクリート用の砕石と砕砂の製造・販売を

行っており、主力商品は、20mm～5mmサイズの「砕石2005」と5mmアンダーの砕砂を扱っている。



コンクリートから港湾基礎工事まで幅広い用途に活用されている

より安全で将来へ繋がる 建築物のために

これまでの鉄筋コンクリート構造物は50年設計で考えられてきたが、昨今それを80年程度まで伸ばす都市型建築物の高耐久化が求められている。通常のコンクリートであれば砂でも事足りるが、高強度・高耐久のコンクリートには品質が安定した砕砂が必要だ。しかし、宮城県内の砕石製造業者は僅か。今後の高硬度コンクリートへの需要を見込み、砕砂の量産体制を構築すべく「ミルブレーカーII 1680型ボールミル」を導入した。要求される粒度分布基準は「6.00mm～0.15mmに85%以上が分布すること」だったが、試験の結果94.6%が分布するという、納品先の要求を確実に満たす結果となった。年間5万tの生産能力目標にも機能性は十分で、工程管理を整備した結果、JIS認証も取得出来た。



発破をかけて石を採掘する現場



近隣と比べても良質な石が採れる



石を砕くために使用されるボール



試験を繰り返し高い品質を保つ砕砂

砕石2005(左)と砕砂(右)

お客様の信頼に応えるため 50年先まで資源を確保

コロナ禍の影響や、一番の商圈となる仙台地域ではまだ高強度建築物への関心が高まっていないため、既存顧客の反応はいまひとつだ。それでも試験を始めてくれている工場もある。さらに多くの会社は無償砕砂サンプルを提供し、品質のいい製品だということを確認してもらうべくPRを進めていく。「事業を続けていけるよう隣の山を購入しました。50年分程度の原石を確保しているので、この品質を50年維持していけます」。二億年前からの贈り物を『桃生ブランド』として、より安心な暮らしのために届けていきたい。

会社の強みは何ですか？



採取場は国道から少し離れた、奥まった場所にあります。ここから良質な石が採れます。また、品質管理、工程検査などもきちんと実施していますので、砕砂を原料とするコンクリートの質にも自信が持てます。大地からの恵みですね。

経営理念が「感謝の気持ちを忘れない」とあります



自然を相手にする業種です。資源を有効活用し、大地からの恵みを地域社会にも還元しています。お客様はもちろん、繋がる全ての人へ感謝です。社員全員がこの気持ちで、日々仕事に取り組んでいます。



株式会社 桃生石産
代表取締役 土井 康博 氏